

政策の柱	Ⅲ 市民の快適な暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	1 る	脱温暖化・循環型の環境にやさしい社会を形成す	施策名	③ ごみの発生抑制, 減量化, 資源化の推進 (3Rの推進)
------	--------------------	----------------	--------	------------------------	-----	-----------------------------------

1 施策の取組状況

主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標)	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)						達成率
					H19	H20	H21	H22	H23	H24	H23
					基準年	実績	実績	実績	実績	見込み	H24見通し
◆資源の有効活用を図るため、5種13分別の導入のほか、廃食用油の資源化や生ごみの堆肥化による資源化を実施している。 ◆市民の意識醸成を図るため、リサイクル推進員の育成や分別講習会の開催のほか、広報紙、ホームページ、イベントなどのあらゆる機会を活用し周知啓発を行っている。 ◆幼児期から3Rを意識付けするため、幼児環境学習としての「みやエコ園」や小学生を対象とした社会科補助教材の作成・配布のほか、環境出前講座において環境学習を行っている。	◆平成23年度は、分別意識の希薄化等により、施策指標に掲げた「資源物以外のごみ排出量(1人1日当たり)」は増加しており、目標に達していない。 ⇒平成24年度の見通しについては、「宇都宮市一般廃棄物処理基本計画」(平成23年9月策定)に位置付けた新たな3R施策を実施するとともに、平成23年度における焼却ごみ量の増加に対する取組みを実施することで、施策指標の目標を達成すると見込む。	98.3%	市民1人1日あたり の資源物以外 のごみ排出量	g	/	882	862	793	793	792	98.3%
					935	905	882	788	806		
課題	◆資源の有効活用を図るためには、未だ減量・資源化が可能なものが混入していることから更なる分別の徹底や焼却ごみの約半分を占める生ごみの減量・資源化が必要である。 ◆市民の意識醸成を図るためには、市民へ更に環境に関する知識と理解を深めてもらう必要があることから、分別による成果や効果について、わかりやすく周知することが必要である。 ◆3Rを意識付けするために、学校の授業において効果的な活用を図るとともに、更なる学習の機会の拡充が必要である。		市民意識調査(重要度・満足度)			H20	H21	H22	H23		
			重要度	86.2	82.2	79.2	83.8		%		
			満足度	41.8	36.2	46.1	50.2				%

2 重点事業の進捗状況

事業名	スケジュール		事業の進捗状況とH24末の見通し	課題
	前期	後期		
新たな資源化事業の導入			◆「プラスチック製容器包装」の分別導入については、平成22年度から分別を開始し、市民の協力のもと資源化を進めている。また、周知啓発にあたっては、分別による成果や効果についてわかりやすく情報を提供する「見える化」に配慮した資料づくりに努めている。 ⇒平成24年度に向け、更に「見える化」に配慮した資料づくりに努めるとともに、分別講習会の開催や巡回パトロール、個別指導等による周知啓発により、プラスチック製容器包装を資源物として加えた5種13分別の徹底を強化することで、更なるごみの減量化・資源化が図られる見通し。 ◆市民協働による生ごみの資源化ルート構築については、実践団体等から地域単位での堆肥化づくりに向けた情報収集のほか、候補地域の選定を行っている。 ⇒平成24年度に向け、実践団体等と連携してそれぞれの地域に合った堆肥化の手法を構築することで、生ごみの地域単位での堆肥化に向けた事業の展開が図られる見通し。 ◆廃食用油の資源化については、平成19年度より家庭から排出される廃食用油の回収を開始し、BDF燃料を製造して市のごみ収集車に利用しているほか、製造に使用しない余剰分の廃食用油は、民間の資源化事業者へ売り払っている。 ⇒平成24年度に向け、回収拠点を拡大し、余剰廃食用油を民間の資源化事業所へ引き続き売り払っていくことで、更なる資源化が図られる見通し。 ◆バイオマスの利活用については、生ごみや剪定枝などの新たな資源化方策の検討を行っている。 ⇒生ごみや剪定枝などの資源化実施手法について検討を行っていく。	◆プラスチック製容器包装についての分別ルールや排出ルールが守られていないことから、更なる分別の徹底が必要である。 ◆生ごみの地域単位での堆肥化に向けた事業を展開していくには、市民にとってわかりやすく、取り組みやすい環境を整備していく必要がある。 ◆生ごみや剪定枝などの資源化については、「一般廃棄物処理基本計画」における3R施策との整合性を図りながら、今後の取り組みを整理し、「一般廃棄物処理施設基本構想」における更新施設の資源化付帯設備へ反映させていく必要がある。

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)					重点度 (A~C) ※施策目標に対する寄与度	事業の 方向性	施策目標を達成するための取組方針
						H20	H21	H22	H23	H24			
						実績	実績	実績	実績	実績			
1	リサイクル推進活動支援事業	リサイクル推進員 環境部会 等	H14	研修会実施回数	回	3	2	2	2	2	A	継続	ごみの発生抑制及びごみの減量化・資源化の各施策は、いずれも排出主体である市民の意識が高まらないと推進することができないことから、地域に密着したきめ細かい意識啓発事業を継続していく。

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値（上段：目標値，下段：実績値）					重点度 (A~C) ※施策目標に対する寄与度	事業の 方向性	施策目標を達成するための取組方針
						H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23	H24			
2	分別強化推進事業	市民、事業者	H15	分別講習会開催回数	回	100	30	200	100	100	A	拡大	平成23年度に策定した「一般廃棄物処理基本計画」における減量目標を達成するため、更なるごみの分別・排出ルールの徹底や分別協力度の向上が必要であることから、広報紙や自治会回覧などを活用した全市民的なPRを展開するとともに、リサイクル推進員と連携した分別講習会の開催やごみステーションの巡回パトロール・個別指導等を行っていく。
						84	40	111	72				
3	事業系ごみ減量推進事業	市内全事業者	S47	減量等計画書提出率	%	100	100	100	100	100	A	継続	事業系ごみの更なる減量化・資源化を推進するため、個別訪問指導や大規模事業所を対象とした廃棄物管理責任者研修会において、事業系の紙ごみやプラスチック製容器包装の分別を徹底させるなど、事業系ごみの適正処理に関して周知啓発を図る。
						100	100	100	100				
4	コンポスト等設置費補助金	全市民	S61	補助基数	基	490	370	330	330	330	A	継続	市民の協力を得るために、自治会講習会、マスコミ等の活用などあらゆる機会を通じて、引き続き、周知啓発活動を展開するとともに、生ごみ処理機を活用した地域単位での生ごみの堆肥化を手法の一つとして構築し、更なる生ごみ処理機の利用拡大と継続利用を推進する。
						414	308	264	227				
5	ごみ減量キャンペーンの開催	全市民	H2	イベント参加者数	人	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	B	継続	市民の協力を得るために、分別・排出ルールの更なる徹底や生ごみの水切り励行など、焼却ごみの減量化を図る周知啓発において「見える化」に重点をおきながら、自治会講習会や広報紙、イベントなどあらゆる機会を通じて展開していく。
						4,610	3,638	3,905	4,831				
6	社会科補助教材編集事業	市内小学4年生	S57	補助教材配布数	冊	5,550	5,550	5,550	5,550	5,550	B	継続	社会科補助教材については、教育委員会で作成している「副読本」との整合性や必要な見直しを図りながら、小学校の授業での活用を促進するとともに、今後は、更に一般向けの環境出前講座におけるテキストとして効果的に活用していく。
						5,550	5,780	5,800	5,750				
7	資源物集団回収推進事業	全市民	S53	資源回収団体届出数	団体	590	630	630	630	630	B	継続	市民の協力を得るために、自治会講習会、マスコミ等の活用などあらゆる機会を通じて、周知啓発を図る。
						601	618	612	603				
8	廃食用油資源化事業	全市民	H19	廃食用油回収量	ℓ	19,000	25,000	30,000	32,000	34,000	C	継続	廃食用油の回収は、循環型社会の構築に向けた市民の意識付けに効果的であることから、今後も回収拠点を拡大していく。回収した廃食用油の利用先については民間資源化事業者などと連携し、資源化を推進していく。
						21,027	28,690	27,008	29,780				
9	清掃事業協力者表彰	まちづくり協議会から推薦された個人・団体	S50	表彰者数	人	117	117	117	80	80	C	継続	ごみ減量化・資源化及び環境美化の推進を図るため、地域の美化及びリサイクルの推進に貢献している個人又は団体に対して感謝状を授与し、功績をたたえとともに、今後の環境美化活動等に対する励みとしてもらうために継続する。
						39	43	54	51				